

2016年3月期 第3四半期 決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 IR・広報室担当
北畠 一明

2016年2月4日

2016年3月期第3四半期決算概要についてご説明いたします。

営業外・特損益・法人税

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	
営業外損益	58	-31	為替 14年度 +81 15年度 -24
経常利益	587	610	前同比+4%
特別損益	-64	+43	14年度 欧州再編 -64 15年度 幡ヶ谷土地売却(Q2) +44
税前利益	523	653	前同比+25%
法人税等合計	-189	-219	税制改正 税負担減 18
法人税等負担率	36%	33%	
純利益	334	435	前同比+30%

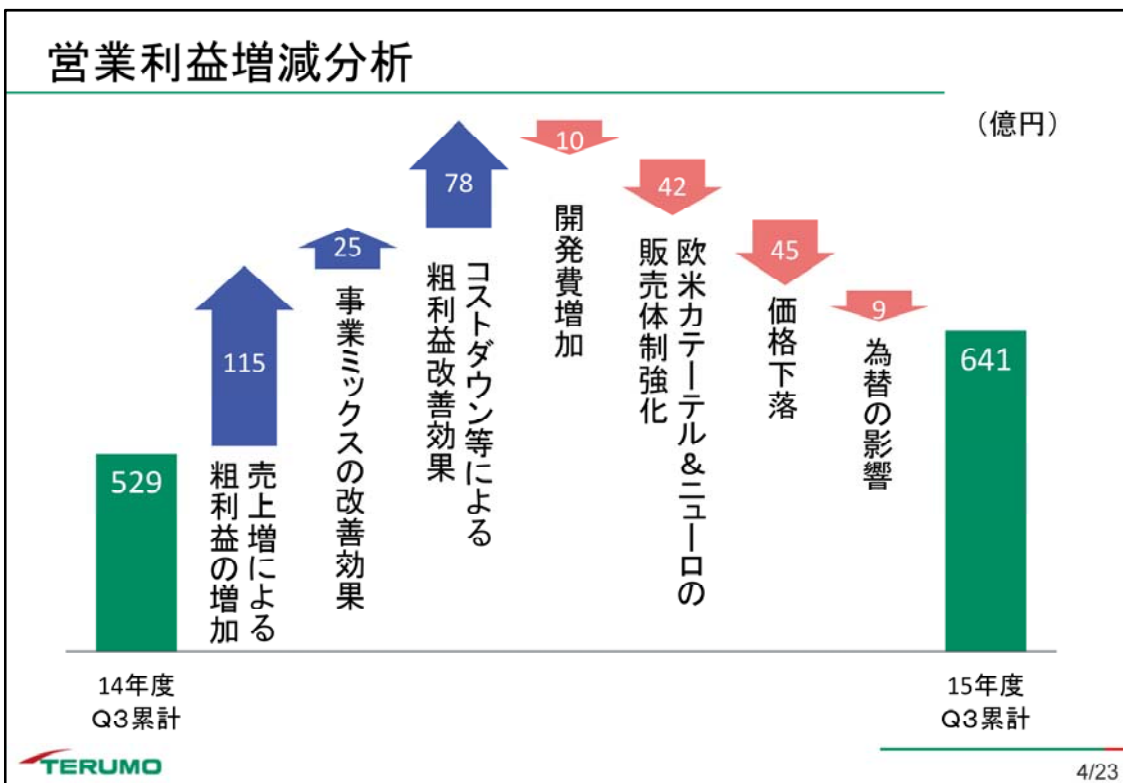
TERUMO

3/23

経常利益は、前年同期比4%増の610億円となりました。営業利益よりも伸長率が低い理由は、主に為替差益・差損の影響です。2014年度は、Q3に急激に円安が進んだためQ3累計で為替差益81億円を計上しましたが、今年度は逆に24億円の差損を計上し、前年同期比で100億円以上のマイナスとなっています。

一方、特別損益は、2014年度に欧州のホスピタル事業の再編で64億円の特別損失を計上しましたが、今年度は、Q2に幡ヶ谷の土地売却益44億円を特別利益として計上したため、逆に前年同期比100億円超のプラスとなりました。

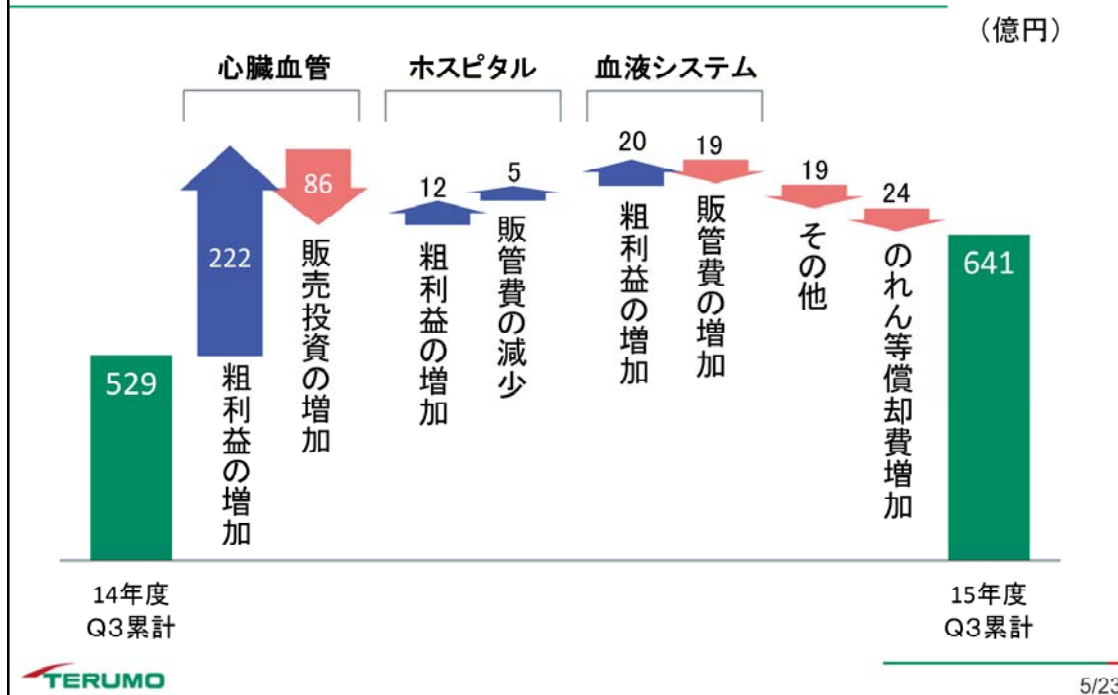
純利益は、税制改正に伴い法人税等の負担率が36%から33%に下がったことにより、前年同期比30%増の435億円となりました。



次に営業利益の増減分析についてご説明します。

上期とほぼ同じ状況ですが、売上増による粗利益の増加が115億円と大きく貢献しました。コストダウン等による粗利益の改善効果も78億円と、上期と比べて増えました。主にUltimasterの売上増、原油安等による材料のコストダウン、増産効果の3つの要因が寄与しています。

営業利益増減分析



今回は、当社の戦略についてよりご理解を深めて頂くため、カンパニー毎の営業利益増減分析もご説明します。

心臓血管カンパニーは成長を牽引しており、粗利益も大幅に増加しています。同時に成長のための販売投資も行っています。

一方、ホスピタルカンパニーでは、営業利益率の改善が最大のテーマであり、粗利益の増加に加えて販管費をコントロールすることで営業利益の増加を目指しています。

血液システムカンパニーは、新しい領域である細胞治療の分野にリソースを投入していることもあり、販管費が増えています。

15年度 Q3累計: 為替変動の影響 (対前年比)

期中平均レート	14年度	15年度	
USD	107	122 (+ 15円) 14%安	
EUR	140	134 (△ 6円) 4%高	
人民元	17.3	19.3 (+ 2円) 12%安	(億円)

	売上高	営業利益	
USD	+ 145	- 8	のれん等影響 - 18
EUR	- 20	- 16	
人民元	+ 30	+ 18	人民元建売上影響 + 30 製造原価影響 - 12
他新興国通貨	- 5	- 3	
合計	+ 150	- 9	

TERUMO

6/23

次に為替変動の影響についてご説明します。期中平均レートは、対ドルで円安、対ユーロで円高、その他の新興国通貨は、対人民元で円安、中南米の通貨に対しては円高と、非常にまだら模様となっており、影響が読みづらい状況になっています。

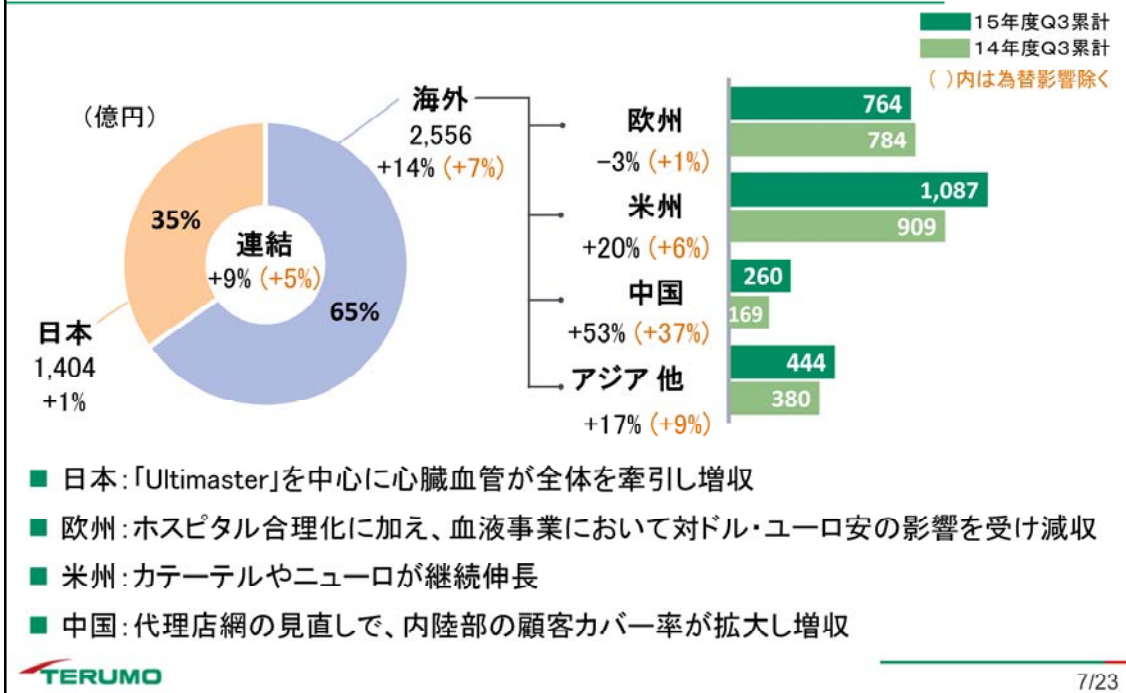
米ドルレートの変動による影響は、円安により、売上高への影響は前年比でプラスでしたが、営業利益に対してはドルベースののれんが増えることにより、マイナス18億円の影響があり、合計でマイナス8億円の影響となりました。

ユーロは、円高の影響を受けて売上高、営業利益ともにマイナスの影響が出ています。

人民元は、売上高ではプラス30億円でしたが、製造原価でマイナス12億円の影響があり、その結果、営業利益に対してはプラス18億円でした。

中南米を中心とするその他の新興国通貨では、円高の影響により売上高でマイナス5億円、営業利益でマイナス3億円の影響がありました。

地域別売上高

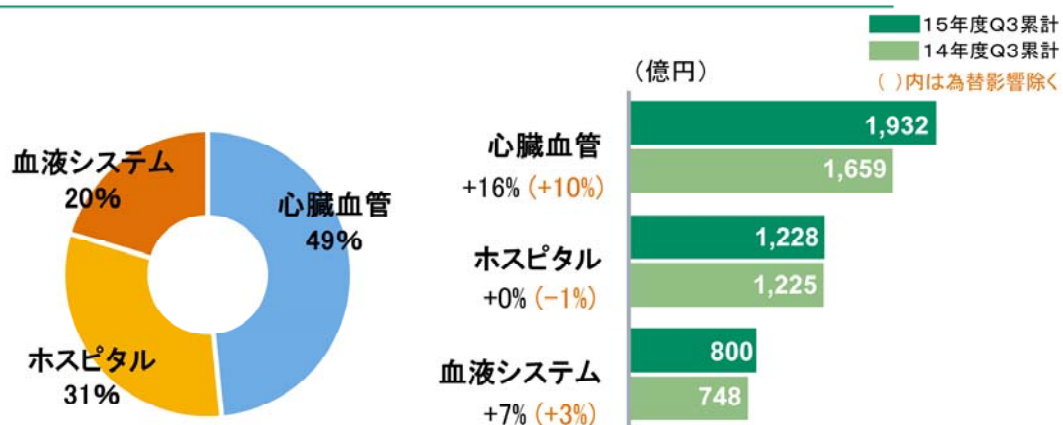


次に地域別の売上高です。

Q1、Q2の状況から変化はありません。日本は若干の増収、海外は14%増となりました。

海外では、欧州の売上高が、ホスピタル事業の合理化と、血液事業における対ドルでのユーロ安の影響などにより減収となりました。欧州を除く米州、中国、アジア他は、全て二桁以上の大幅な増収となりました。

カンパニー別売上高



- 心臓血管: 海外カテーテルおよびニューロの継続伸長に加え、「Ultimaster」が牽引し、為替の影響を除いても二桁伸長
- ホスピタル: 欧州における合理化の影響
- 血液システム: 新興国の成分・全血採血に加え、治療アフェレシスが継続伸長



8/23

次はカンパニー別の売上高です。

地域別と同様、Q1、Q2の状況から大きな変化はありません。心臓血管カンパニーの売上高は、為替の影響を除いても二桁の伸長となりました。

心臓血管カンパニー: 海外カテーテル・ニューロに加え日本も大幅伸長

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	1,659	1,932	+16%	+10%
事業利益(率)	342 (21%)	478 (25%)	+40%	+26%

<売上面>

- 海外カテーテルやニューロが北米を中心に継続伸長 +157億
- 中国: 代理店網の見直しにより内陸部の顧客カバー率拡大 + 76億

<利益面>

- 海外カテーテルおよびニューロの売上拡大、また「Ultimaster」のグローバルでの売上拡大による利益増とポートフォリオミックスの改善



9/23

カンパニー毎の状況をご説明します。

心臓血管カンパニーは、売上高、事業利益、事業利益率ともに前年同期比で大幅に増加しました。海外のカテーテル事業、ニューロバスキュラー事業の売上が北米を中心に引き続き伸長したことに加え、中国で前年度に実施した代理店網の見直しにより、内陸部での顧客カバー率が拡大し、大幅な増収となりました。

海外のカテーテル事業では、特に北米でのTRI浸透に伴い、TRI関連製品の売上が引き続き好調に推移しています。利益面では、Ultimasterがグローバルで好調に推移した事に加え、ニューロバスキュラー事業の売上拡大も寄与し、事業利益率は前年同期の21%から25%へと大きく伸びました。

ホスピタルカンパニー:D&D、DMの伸長、コスト改善活動で収益は改善傾向

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	1,225	1,228	+0%	-1%
事業利益(率)	165 (13%)	182 (15%)	+11%	+12%

<売上面>

- 日本: 腹膜透析や疼痛緩和が引き続き伸長 + 17億
- 日本: 血糖計や「ナノパス」等DM製品が伸長 + 4億
- 欧州: ポートフォリオ再編の取り組み - 21億

<利益面>

- 工場における継続的なコスト改善に加え、原油安による材料費減



10/23

ホスピタルカンパニーの売上高は、欧州の事業ポートフォリオ再編による売上減の影響が大きく、前年同期比でほぼ横ばいとなりました。

一方、工場における継続的なコスト改善、原油安による材料費の減少等が寄与し、事業利益率は前年同期の13%から15%へと改善しました。

血液システムカンパニー：新興国、アフェレシス治療が継続伸長

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減率	為替除く
売上高	748	800	+7%	+3%
事業利益(率)	142 (19%)	143 (18%)	+1%	+8%

<売上面>

- アフェレシス治療や細胞処理システムが継続伸長 +33億
- 中国・アジアにおいて成分・全血採血ともに伸長 +29億

<利益面>

- 米国を中心とした新価格のマイナス影響
- 米国生産・欧州販売製品での対ドル・ユーロ安によるマイナス影響



11/23

血液システムカンパニーでは、米国を中心とした新価格への移行がQ3でほぼ完了し、Q4からフルに影響が出る見込みです。

一方、中国・アジアでは成分採血、全血採血向け製品の売上が大きく伸びたことに加え、アフェレシス治療分野、細胞処理システム分野など血液センター向け以外の製品も売上が大幅に伸長し、カンパニー全体では増収となりました。

Q3 主なトピックス

- 今年度の中間配当、また期末配当予想を増額修正(11月)
- 「テルモ コーポレート・ガバナンス基本方針」制定(11月)
- 3製品が2015年度グッドデザイン賞を受賞(10月)

全社



静脈留置針
「サーフローV3」



ニードルフリー輸液システム
「シュアプラグAD」シリーズ



血栓吸引カテーテル
「エリミネートプラス」

- 日経フォーラム「世界経営者会議」(11月):
イノベーションについて登壇(新宅)



事業

- 日本で薬剤溶出型ステント「Ultimaster」をローンチ(10月)
- ヒト(自己)骨格筋由来細胞シート「ハートシート」の保険償還価格決定(11月)

TERUMO

12/23

Q3の主なトピックスです。

全社のトピックスとしては、中間配当および期末配当予想を16円から19円へと増額修正しました。また、「テルモ コーポレート・ガバナンス基本方針」を制定しました。さらに、3製品が2015年度のグッドデザイン賞を受賞しました。

事業におけるトピックスとしては、薬剤溶出型ステント「Ultimaster」を10月に日本でローンチしました。「ハートシート」はQ2に条件及び期限付承認を取得し、Q3に保険償還価格が決定しました。

15年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域	ローンチ	領域	製品		地域	ローンチ
心臓	DES (Ultimaster)	◎◎ ★	日	10・1発売	CV	遠心ポンプ・ディスポ (PCPS用)		日	Q4 予定
	次期血栓吸引 カテーテル		欧・南米・亜	Q4予定	血液	自動製剤化システム	★	日	FY16 予定
ペリ フェラル	ステント (Misago)	★	米	Q1					
	PTAバルーン (膝上)		欧・米	Q2					
	PTAバルーン (膝下)		日	FY16 予定					
	塞栓用ビーズ	★	欧	Q1					
脳	コイルアシスト・ステント	◎	日	Q1					
	液体塞栓剤	★	欧	Q1					
	プロテクションデバイス	★	欧	Q4 予定					



DES「Ultimaster」
日本ローンチ(10月1日)

◎ 業績貢献大、★ イノベーション度高



13/23

次に、2015年度のパイプライン製品です。

最大の売上貢献が見込まれる「Ultimaster」は、日本で予定より1ヶ月早い10月1日にローンチしました。

Q3の業績に関する説明は以上です。続いて、本日公表しました通期業績予想の修正、自己株の取得についてご説明します。

業績予想修正

■第3四半期の好調を反映し、業績予想を修正

(億円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
従来予想(9月)	5,250	760	730	485
今回修正予想	5,250	800	750	500
修正額	—	+40	+20	+15

▶ 経常利益以下は、年度末の為替レートの変動によって変わる可能性あり

■第4四半期の動向予想

- ▶ 海外カテーテル・ニューロが好調という基本トレンドは変わらず
- ▶ 懸念材料としては、
 - ✓ 日本での競合DESのローンチ
 - ✓ 血液事業の価格低下(3Q末まででほぼ完了、4Qはフルに影響)
 - ✓ 新興国通貨安



14/23

業績予想については、2015年9月にQ1、Q2の好調な業績を反映し、上期・通期の業績予想を上方修正しましたが、通期の予想は上期の修正分のみを加味し、下期は当初の予想額を据え置きました。

今回の修正は、Q3の好調な業績を反映し、営業利益、経常利益、当期純利益をそれぞれ40億円、20億円、15億円上方修正しました。ただし、経常利益以下については、為替変動の影響を受けて変わる可能性もあると考えています。

Q4は、海外のカテーテル、ニューロバスキュラー事業の好調という基本トレンドは変わらないと見ていますが、3つの懸念材料があるため、業績はQ3程高い水準にはならないと見ています。

一つは、競合他社のDESが日本でローンチされた事です。10月1日に発売した「Ultimaster」は好調でしたが、Q4は競合がローンチした新製品の影響があると見ています。

二つ目は、血液事業における価格低下の影響です。Q3末で価格低下は完了したため、Q4はフルに影響が出る見込みです。

最後に、新興国通貨安の影響です。

今回の予想値は、これらの要因を考慮して算出しています。

自己株取得500億円(取得期間:2016年2月5日~3月31日)

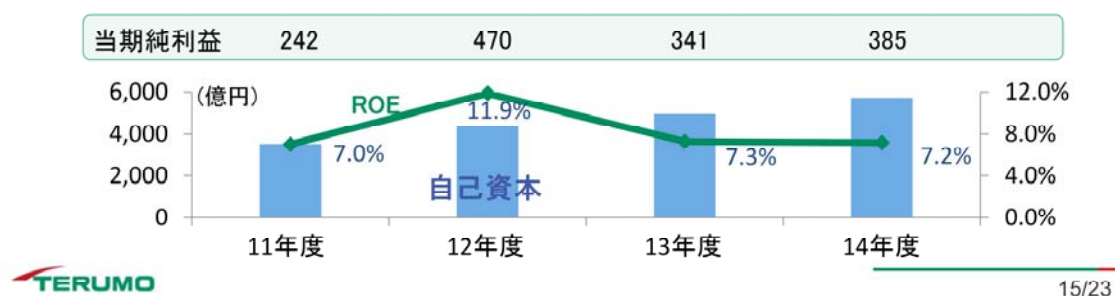
■目的:資本効率の向上

- コーポレート・ガバナンス基本方針に沿った機動的な資本戦略の一環

■今後の対応

- 成長投資優先の方針に変わらない
 - ✓ 技術買収は積極的に実施、その他も探索中
- 成長投資と手元資金のバランスを見ながら検討

参考: ROE推移



最後に、こちらも本日公表した、自己株取得についてご説明します。資本効率の向上を目的に、2月5日から3月31日までの期間で、最大500億円の取得を予定しております。

当社のROEの推移を見ると、2011年度から2014年度で当期純利益は242億円から385億円、CAGRで17%増加していますが、ROEは7.0%から7.2%と殆ど変わっていません。その主な要因は、自己資本の大幅な増加です。利益剰余金が増えていることに加え、カリディアンBCTを買収した際のドルベースの資産が円安で増加し、為替換算調整勘定が膨らんでいることが主な要因です。今後、ROEやEPSを検討する際、収益と共に資本も十分に考慮する必要があると考え、社内で議論を進めてきました。

テルモはこれまで成長投資を優先してきましたが、今後もこの基本方針は変わりません。過去3年で、技術買収などを目的としたベンチャーへの投資を積極的に行っており、5件で計100億円程度の投資を行いました。最近では、放射線放出ビーズを開発するオランダのベンチャー企業に投資を行いました。

今後も成長投資を行っていきますが、設備投資額が減る見込みの中、キャッシュが積み上がる可能性もあるため、成長投資と手持ち資金のバランスを見ながら、適切な資金用途を検討していきます。

以上で2016年3月期第3四半期の決算説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

参考資料

事業別 地域別売上高と伸長率(15年度Q3累計)

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	378 (+5%)	1555(+12%)	496 (+4%)	671(+11%)	205(+41%)	183(+12%)	1932(+10%)
うちカテーテル※	290 (+5%)	1228(+15%)	397(+4%)	490 (+16%)	195(+43%)	146(+16%)	1519(+13%)
ホスピタル	943 (+1%)	285 (-6%)	71 (-21%)	65 (-4%)	15 (+18%)	135 (+3%)	1228 (-1%)
血液システム	84 (-9%)	716 (+4%)	198 (+4%)	351 (-1%)	40 (+24%)	127 (+14%)	800 (+3%)
合計	1404 (+1%)	2556 (+7%)	764 (+1%)	1087 (+6%)	260 (+37%)	444 (+9%)	3960 (+5%)

※ニューロバスキュラー事業含む
()内は為替影響除く対前年同期伸長率

販管費

(億円)

	14年度 Q3累計	15年度 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	521	575	+54	+10%	+5%
販促費	116	126	+10	+ 9%	+5%
物流費	82	83	+1	+ 1%	-0%
償却費	184	210	+26	+14%	+4%
その他	266	278	+12	+ 5%	+1%
一般管理費計	1,169 (32.1%)	1,272 (32.1%)	+103	+ 9%	+4%
研究開発費	209 (5.8%)	233 (5.9%)	+24	+11%	+5%
販管費合計	1,378 (37.9%)	1,505 (38.0%)	+127	+ 9%	+4%

()内は対売上高%



18/23

四半期の動き

(億円)

	14年度Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	15年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上高	1,299	1,263	1,287	1,305	1,368
粗利益	678 (52.2%)	654 (51.7%)	690 (53.7%)	704 (53.9%)	753 (55.0%)
販管費	405 (31.2%)	424 (33.5%)	417 (32.5%)	427 (32.7%)	429 (31.3%)
開発費	74 (5.7%)	84 (6.7%)	79 (6.1%)	80 (6.1%)	74 (5.4%)
営業利益	199 (15.3%)	146 (11.5%)	194 (15.1%)	197 (15.1%)	250 (18.3%)
のれん等償却 除く営業利益	245 (18.8%)	194 (15.3%)	245 (19.1%)	248 (19.0%)	301 (22.0%)
四半期	US\$ 115円	119円	121円	122円	121円
平均R	EUR 143円	134円	134円	136円	133円

 TERUMO

19/23

設備投資と研究開発費

(億円)

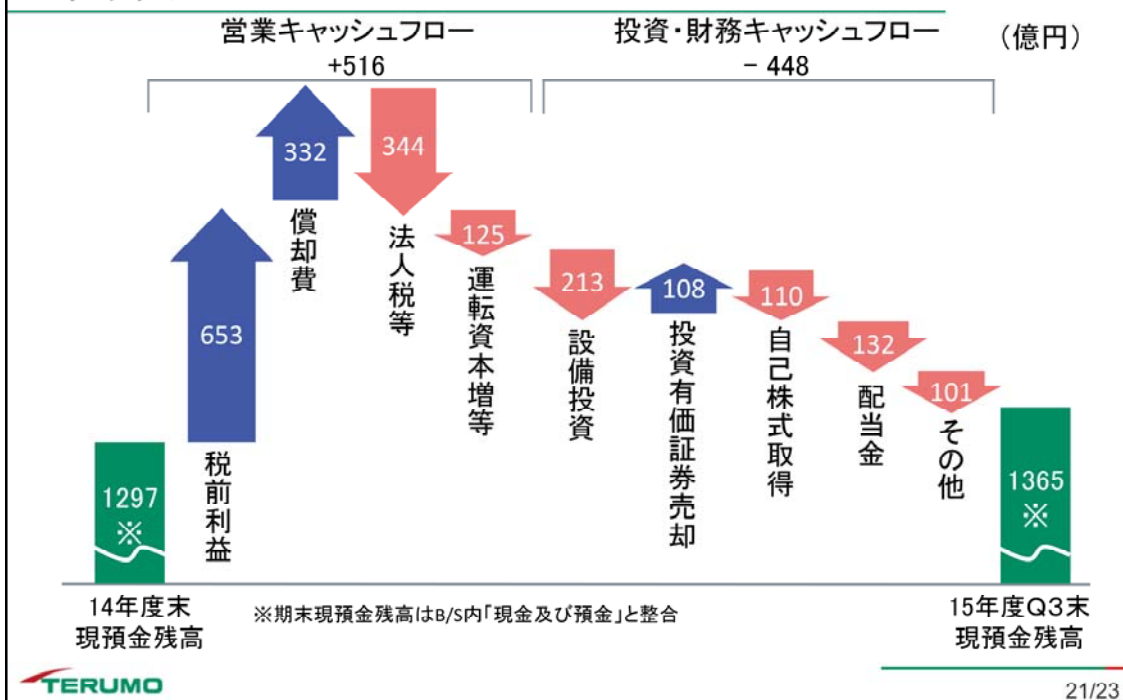
	15年度 予想	Q3累計 実績	進捗率
設備投資	290	213	73%
償却費※	450	332	74%
研究開発費	350	233	67%

※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

<設備投資見直し 360億円から290億円に修正>

1. 投資時期見直し Δ 30億円
2. 投資金額圧縮 Δ 20億円

キャッシュフロー



為替感応度

(億円)

	US\$	EUR
売上高	18	7
営業利益	1	2

- ドルに関し、北米を中心とした売上拡大により売上感応度は高めに推移
ただし、BCT買収後海外生産比率の上昇により営業利益の円安効果は縮小
- 新興国通貨下落による営業利益減をユーロ安効果で相殺

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。